

平成 29 年 4 月 26 日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 5月号

青葉の緑が心を癒してくれる時期となりました。新しく入園した子どもたちも園での生活に慣れ始めており、園庭で元気に歓声を上げて遊ぶ様子がたくさん見られるようになりました。先日も「園長先生見て」と、大事そうに握りしめた手の中を見せてくれました。その手の中には、園庭のどこかで見つけたイモリの赤ちゃんがいました。

## 1 子どもは名探偵

私たちの幼少期には市内でも田んぼが各所に見られ、身近な場所でオタマジャクシもイトミミズも見ることができました。幼稚園のあるこの近辺はまだ埋め立てられる前で、引き潮のときにはカニとの追いかっこがいつでもできました。また、季節ごとに、そして、どこにどんな生き物がいるのか子どもたちはみんな知っていました。

## 2 本物の自然体験



現在はその頃とは様子が大きく変化してしまっていて、過去に動植物を見つけた場所の環境も大きく変化してしまっていて「秘密の場所」という子どもたちにとっての楽しい場所も減少してしまっています。

私の子どもたちはもう30歳になろうという年頃ですが、幼いころからキャンプや虫取りによく出かけました。クワガタムシやカブトムシとりに早朝から出かけ、甘い樹液の香りを体験させ、同時にこのような場所には蜂も蜜を求めてやってくるので、刺されたりする危険があることも教えました。時には、蛍のたくさんいる場所で特定のライトを一定の周期で点滅させると、ものすごい数の蛍が自分たちの方向に一斉に向かって飛んで来るといった非日常体験もしました。デジタル化の世の中ではあっても本物の自然体験はより大切です。この蛍の体験は大人の私でも新鮮な感動を覚えました。このように、幼少期に親子でたくさんの自然体験を重ねていると興味関心の幅が広がります。

## 3 子育てを楽しみましょう



既に園の先生方には読んでいただいているのですが、私が48歳の時に書いた「子育ての死角」—問われる親の責任・教師の責任—という本があります。この本は、子どもたちが12歳の頃に書いた物ですが、私と同じ年頃になった時に、自分の親はどういう気持ちで自分たちを育てていたのかがわかるようにしたものです。1999年の出版なので、古いものですが、時代が変わっても変わらないものを意識して執筆した本ですので、ご興味のある方は幼稚園の先生にお声がけください。（公立図書館・京大法学部附属図書館・天津市の大学図書館等所蔵、現役弁護士も読者）

幼稚園に新しいお友だちを迎え、職員一同ワクワクしながら生活しています。保護者の皆様と職員が一体となって、大切な子どもたちの成長を共に協力しあいながら支援して行きたいと考えております。

（園長 杉山）